

報徳博物館

友の会 だより
No.3

尊徳生家周辺屋敷地測量図

二宮四郎氏 寄託

二宮家伝来文書の中から最近発見された貴重な資料で、カラー写真としてはこれが初公開です。

縦48cm、横33cmの特殊な和紙に、縮尺300分の1で、3軒の屋敷と主家や小屋の配置、周辺の水路・道路・農地などが詳しく描かれ、必要な部分には測量値が記入されています。

図の下方、「銀右衛門」とあるのが尊徳生誕の屋敷地です。尊徳18歳の文化元年(1804)、伯父万兵衛の要望で、この屋敷地と伯父所有の他の地所とを交換することになりました。その際、尊徳が実測・調製したのがこの図面で、それは二宮尊徳全集の記事からも立証されます。

尊 德 生 家

小田原市^{かひら}栢山にある尊徳記念館は来年改築されます。これは尊徳生誕200年を記念して小田原市が計画したものです。しかし、記念館の隣には尊徳生家があり、市の計画では生家周辺の景観が害されるという声が高まったことも事実です。当初の計画は大幅に変更されることになりましたが、こうしたなかで尊徳生家に対する関心が高まったことは大きな収穫であったといえましょう。そこで、本号では尊徳生家を取りあげてみました。

◆尊徳生家の変遷

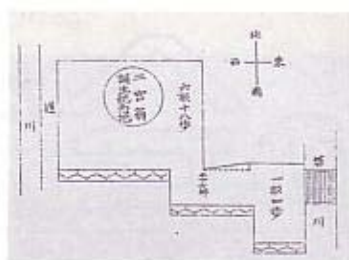
享和2年(1802)に二宮金治郎(尊徳)の田よしが死去し、一家離散にあたり生家は西栢山の奥津平兵衛に渡り、尊徳はその2年後に生家と周辺の実測図を作成しています(表紙参照)。明治22年(1889)に生家は奥津家から柳新田の渡辺儀太郎に譲渡され、同42年(1909)には真珠王御木本幸吉が生家の敷地を買い、記念公園として整備しました。6年後、彼は敷地を中央報徳会に寄付し、昭和9年(1934)に小田原町が永久無償で貸与されることになりました。同30年(1955)、尊徳没後100年を期して、尊徳記念館建設期成会の手により生家敷地の南隣接地を買収、尊徳記念館が建設されました。生家の建物は昭和35年になって渡辺家から譲り受け、生誕地に移築したのです。これらは事業完了後、小田原市に引き継がれました。なお、尊徳没後110年を記念して同40年に遺品館が建てられ、現在にいたったわけです。



◆御木本幸吉の生家敷地購入

真珠博物館(鳥羽市御木本真珠島)に御木本幸吉が尊徳生家の敷地を買った直後の資料が数点残っており、本年6月に同館の御好意によって資料の存在がわかりました。彼は尊徳の遺業を知り、「尊徳が陸でやったことを海でめざしたい」といって、真珠の養殖に成功した人です。

明治42年6月、御木本幸吉は^{北濱}殿部北濱という人から尊徳の誕生地が荒れていることを聞き、さつ

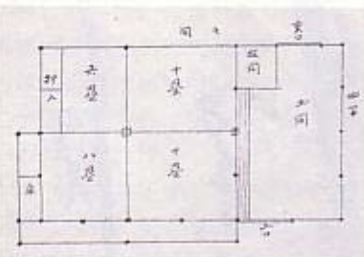


そく同地を買うことを決め、同年11月15日までに誕生地 259 坪(約 855 平方メートル)を購入しました(左図)。

また、彼は旅行者に便宜をはかるために松田駅構内に道標を建てたり、敷地を記念公園として整備しました。

北濱は御木本にこれらのことの御礼を述べるとともに、生誕地には生家がなく「邸内空漠と致居参拝者にも物足らぬ感を起さしむる」ので、生家を購入し、誕生地に移したい旨を述べています。結局、これは実現されませんでした。結句、これは実現されませんでした。彼はその書状に生家の見取り図とスケッチを添えています。右図はその見

取り図です。現在のものと比較すると座敷の区切りや押入れ・仏壇など多少異なっている部分



も見られますが、外郭はほとんど変わっていません。また、板間は後年設けられたようです。

生家のスケッチは鉛筆で書かれています。北濱



は生家の屋根は今までに4回替換えが行われており、「其他ノ修繕ハ餘リ行ハレ居ラス、尊徳翁在住当

時ノ原形真徳ナリ」と述べています。更に、屋根について「屋根が非常ナル急勾配ナルハ、二宮翁の工案ニヨルモノ」であり、屋根が尊徳の工案によって急勾配であったことを記しています。

我々の先輩は尊徳の生家・生誕地を大切に保存しようと努力してきました。それを引き継ぐのは我々に課せられた大きな課題といえましょう。

第9回 企画展 (開催は11月30日まで)

尊徳に学んだ近代産業のリーダーたち

企業経営と報徳

二宮尊徳の思想と方法を学び、これを企業の経営に生かした財界人の事績をとりあげ、それが今日の新鮮さをもって、私たちにいかに語りかけているかにスポットをあてました。

日本の産業社会の確立期に活躍した財界リーダーたちのプロフィールと経営理念をパネルで解説してみました。展示されている主な人物として、早川千吉郎（三井銀行専務理事・中央報徳会理事長）、御木本幸吉（真珠養殖の創始者）、豊田佐吉（トヨタ財閥の創始者）、荘田平五郎（三菱合資会社支配人）、鈴木馬左也（住友本社総理事・



中央報徳会幹事）、鈴木藤三郎（日本精製糖・台湾製糖社長）があげられます。

尊徳の教えは、道徳と経済の一体化をはじめ、感謝・報恩・奉仕・公益・労使協調などの経営理念に生かされています。

⑤ 生まれた時から貧乏だった？

— 金治郎の家は、生まれた時から貧乏だったのでしょうか？ 幼年時代は幸福だったという話も聞きました。 —

よく「赤貧洗うがごとき中に生まれ…」などといわれますが、それは間違いです。おじいさんの銀右衛門が働き者で、2町歩（2ha）余の農地をお父さんの利右衛門に伝えましたから、そのご多少は減っても、かなりの田畑がありました。ただ、金治郎誕生の天明7年（1787）は大飢饉の年でしたから、被害はあったでしょうけれども、温暖な足柄平野のことで、食べるに困るほどではなかったと思われます。

ですから長男坊の金治郎は、善良で慈愛の深い父のもとに幸福な幼年期を過ごして、ひがみのない、愛情こまやかな人間に育っていったのです。

ところが、金治郎5歳の時の酒匂川の大洪水で、農地がすっかり砂利河原になってしまったことから、一家の不幸が始まりました。お父さんは、それを復旧するための重労働や借金心配で病気になるし、地所もだんだん売り払って貧乏になります。そして亡くなります。そのあと、お父さんと子供3人の生活が貧乏のどん底で、その「極貧の恥辱」が、金治郎を発奮させ飛躍させるパネになったのです。

二宮尊徳 Q & A

⑥ 洪水の時、どこへ逃げた？

— その洪水のことですが、水はどのくらい出たのでしょうか？ また、人々はどこへ避難したのでしょうか？ —

後年、尊徳の弟子が、現地へ行って古老に聞いたところによりますと、この時の洪水は、あの辺で床上4尺（121cm）まで来たそうです。

ご承知のように栢山という村は、地名に山がついていますが全く平らなところですよ。たぶん種の本がこんもり茂って、山の感じに見えたので、そう呼ばれるようになったのでしょう。

ですから、とつさの場合に良い逃げ場がありません。家の中でも畳を積んだぐらいではだめです。しかし農家では、天井板がない代わりに、梁から梁へ、材木や板などを渡しておくことが、よくありました。金治郎たちは、この板の上に避難をして、水が引くのを待ったようです。

神棚が目の前にありまして、まつ黒にくすんだ古い大黒様とにらめっこでした。少し水が澄んでくると、目の下を鮎が泳いでいるのが見えました。水が引いたとき、仏壇の隅から、逃げ遅れた鮎を1びき捕ったそうです。金治郎は、数年5歳でしたが、異常な体験だけによく覚えていて、晩年、弟子たちに語りました。それが『報徳秘稿』などに出ているのです。

トピックス

—北海道に生きる尊徳—

二宮尊徳生誕200年記念映画の取材報告、

北海道の東の果てオホーツク海に面した別海町の野付漁業協同組合ビルのホールで、8月21・22日開催された北海道報徳集會を皮切りに、北海道地方における報徳の取材を開始した。野付から虻田、土幌、野幌、札幌まで北海道を横断する11日間の取材で、走行距離は2,000kmにおよんだ。

尊徳あるいは報徳と北海道の関わりは一般にはあまり知られていない。初期札幌村の開拓、尊徳の孫尊親の率いた相馬興復社有志による十勝平野豊頃の開拓、戦前の産業組合設立、そして戦後の農漁協同組合育成。その過程には、日本の近代史を根底で支えた農漁業や産業の現場に、深い関わりをもった報徳のもつともシビアで実践的な姿が秘められているように思われる。

今日北海道の報徳は農協や漁協と一体となって生きている。徹底したいもこじ（話し合い）会により、管理栽培漁業と組合員の福祉厚生に成功した野付漁協はその代表例である。また、農産物の加工と高農商品化によって農村の経済力を飛躍的に向上させた土幌農協はマスコミの脚光をあびた。

豊頃取材の際、明治30年代の開拓資料の中に農産物作付グラフや農業気象の克明な記録を見出した。これは農村管理や生産物売買を指導していた

二宮尊親が作成したものであるが、その仕事ぶりはずでに農協の先駆的役割を果していたように思われる。



▲豊頃二宮農場を見おろす丘に集う牛首別報徳会の役員と取材班

◆事務局から

- 栃木県茂木町は今年8月の大雨で大きな被害をうけてしまいました。復旧作業もかなり進んでいると思いますが、あらためてお見舞い申し上げます。同地は尊徳が仕法を行なった地で、10月25・26日に全国報徳大会（全国報徳団体連絡協議会主催）が開かれます。
- 来年は尊徳生誕200年を記念して小田原で催しが開かれることになり、その準備がはじまりました。博物館でもこれに参加しますので、各方面からの御指導をお願いします。

昭和61年度 友の会会員募集

報徳博物館を身近なものとして気軽に利用しよう。報徳のことをはじめ、歴史や文化をグループで学ぼう。楽しいサークル活動をしよう。そしてこの館を盛り立ててやろう……。

そういった方々に会員になっていただくという趣旨です。会員になりますと、①博物館招待券の贈呈（1年間有効）②会報・パンフレット等の贈呈 ③研修室・講堂・閲覧室等の特別利用 ④館主催行事の案内 ⑤古文書等の受託管理、館売店の割引利用、などの特典があります。

会費は個人会員年間3,000円・法人会員10,000円で、受付事務は博物館で行います。財団法人報徳福運社（郵便振替口座・横浜3-49044）に入会申込みの会費振込みをされますと、会員登録の上、会員証をお届けすることになっています。

報徳博物館友の会規則(抄)

1. この会は報徳博物館友の会という
2. この会の事務所は、小田原市南町1-5-72報徳博物館におく。
3. この会は、報徳博物館のすこやかな発展に協力し、身近な博物館に育てるとともに、これを活用して報徳の原理と方法をはじめ、わが国の歴史と文化をより深く、広く学ぶことを目的とする。
4. この会は、その目的を達するため次のことを行う。
 - (1)博物館への情報提供及び運営協力
 - (2)講座・講演会などの開催
 - (3)会員相互の研さん及び親睦く行事
 - (4)古文書等の寄託のあっせん

発行 財団法人報徳福運社

報徳博物館友の会

〒250 小田原市南町1-5-72
電話0465(23)1151・振替横浜3-49044